

校外学習指導計画案（ 5 ）年生

第5学年担任 中川 道高

教科	理科	題材名	流れる水のはたらき	期 日	平成28年 7月21日（木）1～4校時
学 年	・第5学年 男子6名 女子6名 ・特支 男子2名 計14名 （3グループ）				
引 率	引率者名 ●●● ●●● ●●●計3名				
目 標	・実際の川（久著呂川）を観察して、川や川の周りの土地の様子、災害を防ぐ工夫について調べ、流れる水のはたらきについて考えることができる。				
時 間	場 所	学 習 内 容			指導上の留意点
8:20	5年生教室	○観察の目的を明確にする。			<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習したことを振り返らせる。 ・川の曲がっているところの外側と内側、川原の石の様子、災害を防ぐ工夫など、具体的な観点を示して、記録が取れるように助言・援助する。 ・実際に川に入り体感で流れの速さを確認させる。また、葉を流して視覚的にも確認させる。 ・動画で水中を撮影し、体積の様子をプロジェクターに映す。
8:40	鶴居小学校発				
9:00	久著呂川上流着	○これまでの学習を生かして、地域を流れる久著呂川上流を観察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・観察計画 ・計画をもとに、川の様子を観察 ・流速確認&体感 ・水中観察 			
10:20	久著呂川上流発				<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の事故、転倒、道具の扱いなど、安全指導を徹底する。川の環境保全にも配慮する。 ・自然河川との共通点や相違点を意識しながら観察するようにし、気づいた点をワークシートにメモさせる。 ・本来の河床の高さは河畔林が生えている場所であること、（測高ポールによる計測で）5m程度河床が下がっていることに気づかせる。
10:25	中久著呂コミュニティーセンター	※トイレ休憩			
10:30	久著呂川下流着	○これまでの学習を生かして、地域を流れる久著呂川下流を観察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・観察計画 ・河岸散策 ・計画をもとに、川の様子を観察 			

<p>11:40 久著呂川下流発</p> <p>12:10 鶴居小学校着</p> <p>13:10 5年生教室</p> <p>13:55</p>		<p>○流れる水のはたらきの発展的学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 川の水による災害を防ぐための工夫が古くから行われてきたことを知り、防災・減災のための取り組みや備えの重要性を再認識する。 一方で、川や川原に見られる生き物に対する配慮が必要であることにも考える。 <p>○再生事業との関わりを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 削られた土砂はどこに運ばれていたのかを話し合う。 <p>○観察したことや考えたことをまとめて発表し合い、流れる水のはたらきについてまとめる。</p> <p>○テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『なぜそのような工事が行われたのか』、『その工事によって何が改善されたのか』、『生き物にとってどんな良いことがあるのか』などを考えさせる。 20年程かけて浸食されてきたことや、土砂の浸食を防ぐために川幅を広げたり、川の底を工事したりする事業が行われていることを補足説明する。 久著呂川は釧路湿原を流れて、最後は釧路川に水は流れ着くことを伝える。 久著呂川と釧路湿原のつながりを考えさせる。 これまでの学習を振り返り、流れる水のはたらきについてまとめるようにさせる。 フィールドワーク後のアンケートも行う。
<p>評価の観点と方法</p>	<p>【技能】川原や崖ができていく様子を観察して、流れる水のはたらきや災害を防ぐ工夫について調べ、記録している。〔行動観察・記録〕</p>		
<p>備考</p>	<p>【持ち物】</p> <p>児童→ ・記録カード ・筆記用具 ・探検ボード ・水筒（水かお茶）</p> <p>・リュック ・帽子 ・タオル ・予備の着替え ・靴下</p> <p>教師→ ・救急セット ・デジタルカメラ ・中久著呂コミセンの鍵</p> <p>・流速を確認する道具</p> <p>【山本さんにお願ひする物】</p> <p>・ライフジャケット ・防水カメラ ・プロジェクター ・測高ボール</p> <p>【連絡先】</p> <p>鶴居小学校0154-64-2251 中川携帯 080-●●●-●●●</p>		

